

# 2020年12月21日(月)

## 木星と土星の“超”大接近を観察しよう！

岡山天文博物館

2020年12月21日(月)の夕方、南西の低い空で明るい木星と土星が“超”大接近しているのを見ることができます。(※木星と土星が最も接近するのは12月22日3時頃で日本では見ることはできません。)

これほど木星と土星が近づいて見えるのは1623年7月17日以来、約400年ぶりのこと。次回、同じくらい接近するのは約60年後の2080年3月15日になります。この機会に、ぜひ観察してみましょう!!

### ■観察しよう！

日の入り後、空が暗くなり始めると南西の空低いところに、明るい木星と土星が並んで見えています。明るい方が木星で、それに比べて暗い方が土星です。この木星と土星が日ごとに近づいていき、12月21日に大接近して見ることができます。このとき、木星と土星は満月の見かけの直径の約4分の1(約0.1度)まで接近しています。(望遠鏡を使っても同じ視野の中に見ることができます。)そのため、目で見ると木星と土星を見分けることができない(1つにしか見えない)かもしれません。自分の目(肉眼)で確かめてみましょう。

また、12月17日には、木星と土星の近くに細い月がやってきて、とても美しい光景がひろがります。

※事前に日の入りの時刻を調べて、南西の方向が開けた見晴らしが良いところをさがして観察しましょう。

### ■木星と土星の接近は約20年ごと起こる！

木星は約12年かけて、土星は約30年かけて太陽の周りを一周しているため、約20年ごと木星が土星に追いつき追い越します。このとき地球から見ると、木星と土星が接近して見ることができます。しかし、木星と土星の公転軌道がわずかに傾いているため、どれくらい接近して見えるかは接近のたびに変わります。

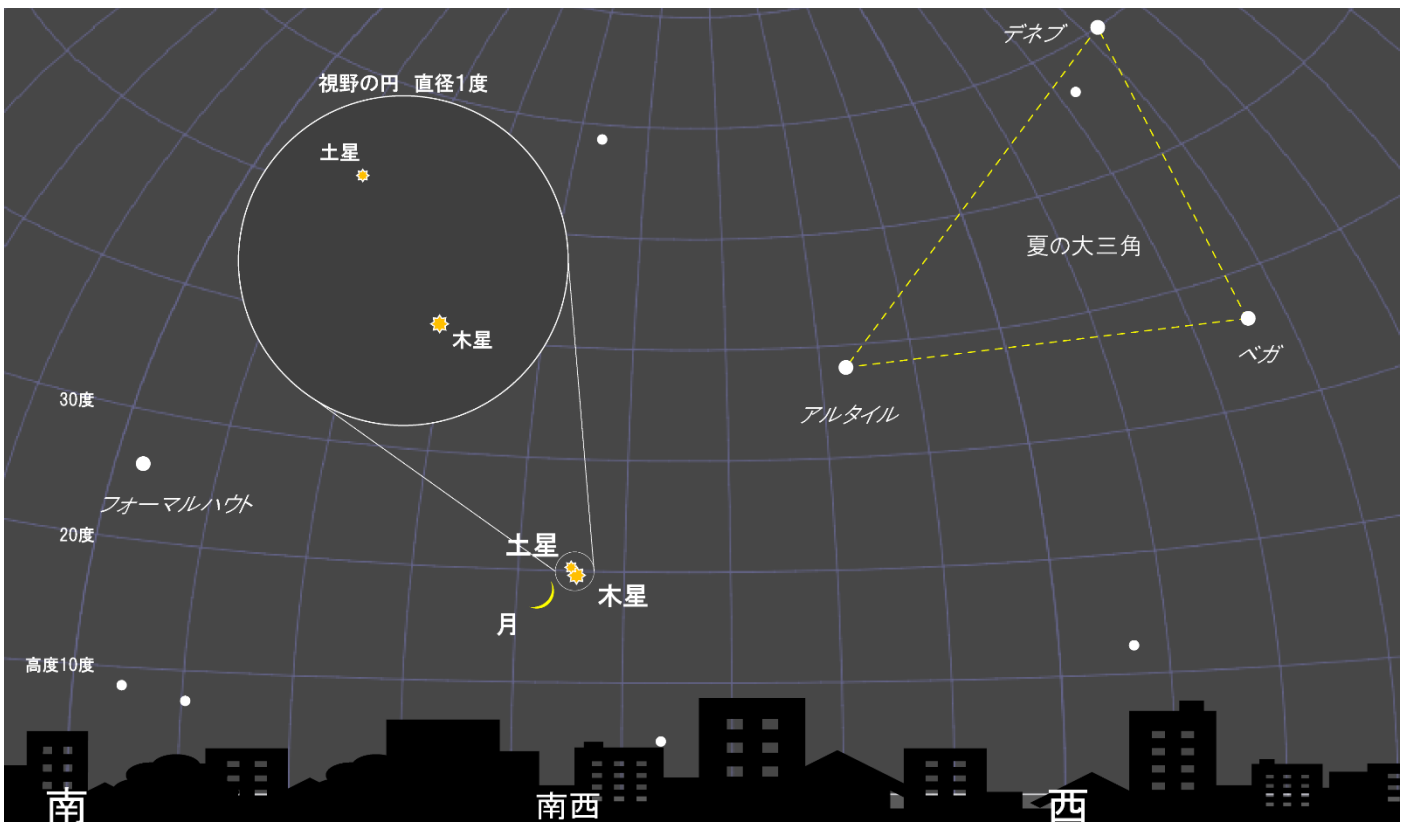



図. 2020年12月17日(木)午後5時30分頃の空の様子(浅口市) 「StellaNavigator 9/AstroArts Inc.」にて作成

## 観察のポイント

- ★ まずは肉眼で観察しましょう！（その後に双眼鏡や望遠鏡があれば観察してみましょう。）
- ★ 木星と土星は南西の空低くに見えますので、その方向が開けている場所を事前に調べておきましょう。
- ★ 12月21日の超大接近の日だけでなく、その前後の期間できるだけ観察してみましょう。  
木星と土星が日ごとに近づいていくようすや位置関係、超大接近（その前後）の日は木星と土星がどのように見えるのか？（一つにしか見えないのか？ 二つに分かれて見えるか？）調べてみましょう。
- ★ 12月の日の入りの時刻（浅口市）は17時頃です。その後2～3時間で木星や土星は沈んでしまいます。
- ★ 十分な寒さ対策をして、外に出て目を暗いところにならしてから観察しましょう。

なまえ： \_\_\_\_\_

## ■木星と土星の観察記録（木星と土星がどのように見えたか？ 観察結果や時刻、場所を書きましょう）

<p>例)</p> <p style="text-align: center;">土星 → ° ← 木星</p> <p style="text-align: center;">※木星と土星は二つにはなれて見えた！</p>  <p style="text-align: center;">南西</p>	<p>●観察日時 2020年12月6日 18時10分ころ</p> <p>●観察場所 浅口市</p>
<p>■木星・土星の見え方</p>	<p>●観察日時</p> <p>●観察場所</p>
<p>■木星・土星の見え方</p>	<p>●観察日時</p> <p>●観察場所</p>
<p>■木星・土星の見え方</p>	<p>●観察日時</p> <p>●観察場所</p>



観察した結果を、下記プロジェクトの『見たよ』レポート  
（受付期間：12月1日～12月31日まで）に投稿しよう！

惑星で星空視力大実験！！～木星・土星”超”大接近観測プロジェクト～  
(URL) <https://www.nayoro-star.jp/mokuseidosei/jp/index.html>

